

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 2 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471503130		
法人名	(株) アサヒライフコーポレーション		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	福山市山手町1385-1 (電話)		
自己評価作成日	令和7年1月8日	評価結果市町受理日	令和7年3月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503130-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年1月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

旧山陽道に面し周囲には田園が広がり、穏やかな風景と自然に恵まれた環境の中に「グループホーム憩」があります。近隣には、保育所や小、中学校、公民館などがあり、地域、町内行事を通じて地域の人々との交流を図り、その関りを大切に育んでいます。職員は「心の繋がり」を大切にしながら、入居者様がその人らしい笑顔と尊厳に満ちた日々を営んで頂けるよう、一人ひとりに応じた医療体制を整え、憩での生活が安心して穏やかなものになるよう努めています。同じ敷地内にある小規模多機能ホーム風花の皆さんとともに、地域の方たちの交流の場、情報交換や発信の場になれるよう頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員全員で考えた年間目標「和と輪」をモットーに利用者、家族、職員、地域の方が、穏やかに過ごせ、「心の繋がり(気持ちの繋がり)」が実現できるよう施設での取り組みだけではなく、地域課題が解決できるよう地域の一員となり地域活動への参加や、地域の相談の場、交流の場となるよう取り組んでいる。福山市の伝統「はね踊り」は地域の保存会のメンバーと日頃から連携を取り恒例行事となっている。家族の協力を得て、外食、利用者の大切にしている場所・人との繋がりやの継続が図れるよう外出を計画している。職員研修は年間計画に基づき、職員自身が講師、指導者となり学ぶ機会を設けている。身寄りがない方の受け入れもあり、市職員と連携し成年後見制度に繋げ地域での生活が継続できるよう取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念のサービスを基本とし、理念を目標にケアの実践に努めている。スタッフルームには見える場所に理念を掲示し、より良いケアの実践に繋げている。	会社の経営理念、事業所の経営理念を各ユニットの事務所内の見える場所に掲示し意識している。施設テーマの「和と輪」に沿った職員一人ひとりの年間目標を掲げ、定期的に管理者との個人面談で振り返りを行い理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事については新型コロナウイルス感染症も5類になったことで地域の恒例行事でもあるはね踊りを入居者様と見学したり、又地域内での溝掃除などには職員も積極的に参加させて頂き、地域との交流を図るようにしている。	町内会に加入しており地域行事、年2回の溝掃除など地域活動に参加している。地域の役員から地域情報を多数得て利用者、職員が地域の一員として交流している。福山の伝統である「はね踊り」は恒例行事であり駐車場まで訪れ利用者と見学している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染症が5類となった時点から2か月に一度、町内の副会長、民生委員、地域包括支援センターの方、及び家族を招いて意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	問題点、課題点を含めて運営状況の報告を行い、出席者の立場、業務ごとの考え方を踏まえて問題や疑問などを話し合い、「皆で支え合う」施設・地域づくりを目指している。	町内会長、福祉を高める会、地域包括支援センター、利用者、家族等多数の参加がある。事業所の状況報告や利用者へ提供している手作りのおやつを試食で施設の日常を伝えている。「皆で支え合う」施設・地域づくりでは地域の災害対策について連携を取り安全安心の街づくりに取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	福山市の生活福祉課、介護保険課、保健所との連携を図り、生活保護受給者を含む入居者様に必要な支援やケアが行えるように努めている。	生活保護受給者の受け入れ、身寄りがない利用者を成年後見制度に繋げる相談など、日頃から福山市の生活福祉課担当者と密な連携を図り協力関係を築いている。地域包括支援センター、保健所主催の研修会に参加している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者様の意思、自由を尊重したケアを基本とし、声かけ一つで身体拘束となってしまう事を念頭に置きながら業務を遂行するように努めている。又定期的に職員自ら身体拘束について勉強し、講師となり再度学ぶ場を設けている。	身体拘束適正化委員会で3ヵ月に1度会議を開催している。自己チェックリストを毎月の定例会議で確認している。年に2回ユニット合同で研修を行い、職員が講師となり学ぶ機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者様の自由、尊厳を尊重し、言葉一つ拘束になるということを職員が意識、理解をした上で業務にあたるようにしている。又定期的に虐待をテーマとした施設での勉強会を開催し、日頃の振り返り、再認識できる場を設けている。研修にも参加させて頂き、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々の利用者に添った対応を進める為に、他の事業所や家族、医療従事者と連携を図り職員にも説明し、実践を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	グループホームで生活するうえで必要な書類、条件を説明し、同意を得たうえで、ご家族様の要望や利用者様の不安な点に対して耳を傾け、解決策を提示した上で安心して入居ができるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族様からの意見は申し送りノートに記入し、全職員が共有したうえで、早急に解決できるように努めている。必要に応じて家族と話を交えお互いにとって良い方向に繋げられるように努めている。	2か月毎の広報誌を家族に送付し事業所の様子を伝えている。毎月担当者が家族へ連絡し、日常生活の様子を伝えている。意見箱の設置はあるが投函される家族は少なく、意見があれば面会時に伝えてもらっている。申し送りノートを活用し利用者、家族の意見を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見に対しては率直に受け入れ、主任、管理者クラスのミーティングで議題としてあげその意見の必要性に対して会議をしたうえで反映できるように取り組んでいる。	毎月1回、主任、管理者会議があり、定例会議で職員の意見を検討している。日々の業務で意見、提案があればその都度管理者と職員で話し合いの場を設けている。永年勤続表彰、福利厚生を含め、働きやすい職場環境に務めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者（社長、副施設長、管理者）で構成される定例会議を毎月開催し、各事業所の運営に関わる問題を議題とし話し合いを行い、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加の奨励と共に、勉強会の開催を企画している。個別には管理者・主任が指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部への研修及び施設での勉強会を毎月行い、職員一人ひとりが知識を持った上で業務を行い、サービスの質の向上に力を入れている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人や関係者から情報収集を行い、職員が事前に情報を共有することで入居に備えた準備をしている。又できる限り、入居されるまでに馴染みの関係が気付けるよう配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人に対する要望や施設に対する要望や期待、不安を入居前に事前に聞いたうえで施設、医療機関、家族と連携を図り、全体で入居者様を支えていくという目標を掲げ、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、家族の状況を事前によく理解した上で、入居後の生活について医療機関、家族、施設職員と相談しながら適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が楽しみながら役割や作業（洗濯物を畳む 干す 食器拭き）などに参加して頂けるような声かけを行い、参加された方に対して感謝の気持ちを都度伝え、お互い支えあいながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様来訪の際には直接職員が施設内での様子、イベント時の様子などをお伝えし、遠方のご家族様に対しては都度電話で様子を伝えるように努めている。また気軽に来訪して頂けるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人、ご家族から話を聞き、家族、関係者の協力を仰ぎ、馴染みの物、場所、人との関係の維持に努めている。又気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを大切にしている。	年賀状、手紙、電話などで入居者が大切にしてきた人との関係性が途切れないように担当の職員が毎月支援している。家族と連携を取り自宅や兄弟、親戚に会いに行くなど外出・外泊がスムーズに行えるよう家族に協力を依頼し実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が寄り添い、また程良い距離間を維持しながら入居者同士の程よい関係を保てるように職員は配慮している。またトラブルの際には職員が間に入り、関係が崩れないように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて家族や本人への支援を継続している。施設の特性上、退去後、入院先で亡くなられる場合が多く、最後のお別れまで可能な場合のみさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや要望を汲み取り、ご家族様とも相談を交えながら努めている。発語や難聴などの難しい方に対しては言語、非言語を活用しながら本人の気持ちを汲み取れるように対応を心掛けている。	利用開始時に家族、関係機関へ生活歴、生活環境、本人の要望等確認し情報を作成し職員間で共有している。ケア会議、ケアプラン作成時に本人、家族へ意向の確認を行っている。日々の生活の中で食事中の様子やレクリエーションの際の表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後に可能な限り、本人、家族、関係者から情報を収集している。本人や家族から思い出話や懐かしい事を伺うことでご本人様のニーズに繋げ、本人の思いに寄り添った支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ること、出来ないこと、やりたいこと、やりたくないこと、得意なこと、不得意なこと、好きなこと、嫌いなことを把握した上で表情や体動を観察し、ニーズに応じたケアが出来、想いに寄り添った支援に繋げている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、医療機関の意向を踏まえたうえで作成したサービス計画書をもとに家族、介護職員、看護職員などで検討を重ね、問題の解決を図り、ケアの質の向上に努めている。本人の状態によって計画は随時変更している。	担当職員が6カ月毎にアセスメントを実施し、3カ月毎にモニタリングを行っている。計画作成者が利用者、家族に意向の確認を行い、かかりつけ医の意見を介護計画へ反映している。協力が得られる家族の支援を介護計画に盛り込み作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様ごとに個別の介護日誌、健康管理表に細かく記録している。それを踏まえて日々の申し送り、ミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの「想い」に寄り添った支援が出来るよう柔軟な発想と「心」で対応できるように一人ひとりが意見を持ち寄り日々奮闘している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域のイベントを通じて楽しめる幅広い支援を取り戻していけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族様の希望を把握した上で、適切な医療の提供を受けられるよう、提案、支援している。かかりつけ医や主治医との連携を図ることでご本人、ご家族様の要望に応じ、医療機関の紹介、連携も行っている。	かかりつけ医との24時間の連携体制、月2回の訪問診療を説明し、本人・家族が納得後かかりつけ医を選択している。看護職員を配置し緊急時の対応、アドバイスを受けられる体制を整えている。必要時、希望があれば歯科、皮膚科の訪問診療を受けられる体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内の看護職員は常に連絡を密とし必要に応じて迅速に医療機関への受診、入院対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に施設側が医療機関とご家族様のパイプ役となり必要に応じて入退院の際には職員が同行し、家族、病院をサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に基本的な方針やリスクを想定した対応などの説明を行い、同意を得た上でサービスの提供開始となる。入居者の状況変化に応じて都度関係職員の意見を用いながら施設で出来ること、出来ないことを見極め、ご家族、本人様に理解して頂けるように努めている。	契約時に重度化した場合における対応に係る指針を説明している。状態変化に応じて家族へ説明し施設で出来る範囲を伝えている。施設での生活が難しくなれば協力医との対応がスムーズに行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必要な時に直ぐ手に取れるように緊急時のマニュアルを各部署に配布している。又上司による緊急時の対応の説明をしている。又年に1～2回の救命訓練やミーティングの中で管理職、看護職の指導のもと、実践できるように準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	福山市の合同防災訓練に参加したり、施設内での訓練には入居者様も参加し実施している。	火災訓練、避難訓練を年に2回、利用者・職員と実施している。ハザードマップ上では水害を受けやすい地域のため、1階から2階への垂直避難訓練を実施している。水・食料・日用品などの備蓄品は3日程度備えており、同一会社から協力が得られるよう体制を整えている。	運営推進会議では水害の実体験から得た今後の対策、必要な備えについて地域に広められている。今後は地域住民との連携を図る目的で、災害を想定した訓練を地域住民、消防署と実施し協力体制作りを期待したい。

自己評価	外部評価	項 目（ 1F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は「親しみやすい声掛け、態度」と「馴れ馴れしい声かけや態度」の区別を理解し、入居者様の尊厳を大切にしプライバシーに配慮した声かけが出来るように努めている。	尊厳・プライバシー確保の研修を年に2回実施している。言葉や表現、呼び名など都度職員間で注意し合い意識を高めている。記録物は他者の目に触れないよう保管している。浴室、トイレにはパーテーションを設置し利用者の気持ちに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が遠慮や職員に対して気を遣い、自分の思いや希望が言えないことが無いように明るい雰囲気の中で個々のペースに合わせて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりがいろんな思いと自分のペースでゆったりと過ごして頂けるよう、施設職員は創意工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的に散髪免許を持った職員がカットを行ったり、髪を染めたりすることで喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好物、嚥下状態に合わせ、普通食、刻み食、ムース食、ペースト食、トロミで提供し、美味しく楽しく食事をして頂いている。	朝食は職員が手作りし、昼食・夕食は配食業者に発注している。行事担当が行事メニューを作成し、季節の料理を利用者と作り、お菓子づくりは、きな粉餅、ケーキ作りなど楽しむ支援をしている。食後は利用者が食器洗い、片付けが出来るようキッチン周りを整理し、安全に行えるよう環境を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	医師、看護師、家族と相談しながら食事 の内容や水分の質、トロミ具合などを検 討し無理なく安全に召し上がって頂ける ように工夫している。食器も色や形、大 きさ、深さによって使い分けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	家族に説明し同意を得た上で歯科医師、 歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりの 状態に合わせ、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	可能な限りトイレで安心、安全に排泄が できるように介助を統一し、トイレで排 泄が出来るようにしている。居室には必 要に応じてポータブルトイレを設置して いる。	利用者個人個人の特徴を記録し職員間で 共有している。排泄の間隔だけではなく 本人の仕草や声の大きさなどから排泄パ ターンを把握し、適時トイレ誘導を行っ ている。トイレには縦手すりの設置など 環境面に配慮しトイレでの排泄が継続で きるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤に頼りすぎないように医師・看護師 の指示のもと職員で話し合い、運動や食 物繊維、乳製品など便秘に良いと言われ ている食品を取り入れるなどの工夫をし ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入居者様の状態や希望を尊重し、ゆっく りくつろげるように予定を組んでいる。 入浴中の事故やトラブルの予防の対応の 為、入浴時間帯は職員が3人体制を厳守 している。	浴室は介助が十分できる広さで、暖房や 手すり、シャワーチェアーが設置してあ り、安全面にも配慮している。週2回か ら3回の入浴を提供しており気持ちの変 化を見ながら入浴日を変更できるよう工 夫している。家族が準備した入浴剤や本 人が好むシャンプーや入浴剤を使用し、 入浴が楽しめる工夫を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者様それぞれに居心地の良 い場所があり、食後は居室やソ ファで過ごされる方も多い。職 員は急変や転倒にすぐ対応でき るように都度巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	病院からの服薬の指示、指示書 は必ず書面で確認している。目 的や方法に応じて看護師、医師 の指示のもと保管場所や取り扱 い方法を決め、職員同士で共有 し、確認、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	午前、午後の定時のおやつ以外 にも好みの物や嚥下状態の悪い 方でも食べられるようなおやつ を準備している。個別に散歩や 買い物、YouTubeなどを利用し 昔懐かしい映像を見たり楽しん で頂けるように創意工夫してい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	駐車場やベランダでの日向ぼっ こ、近隣への散歩や買い物、外 食、季節に応じて花見、家族と の外出などの頻度は個人差もあ るが、外出の支援は積極的に行 っている。	駐車場での外気浴、敷地内の花 壇の草取り、地域の公園へ散歩 など日常的に取り組んでいる。家 族の協力が得られる良好な関係 にあり、外食や、県外の親族の 家、利用者が大切にしている人 、場所への外出支援が実現でき るよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	お金に関心のない方、お金のこ とで不安になられる方も居られ るため対応には配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目 (1F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な限り柔軟に対応している。家族関係や関係先の事情も把握した上で混乱、トラブルにならないよう円滑にやり取りが継続できるように努めている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	脱衣場やトイレなどの使用頻度の高い共有空間には介助するうえでプライバシーが確保できるようにカーテンやパーテーションを設置し、プライバシーが守られるように配慮している。又季節ごとに飾りつけを入居者様と一緒にいき、居心地の良い空間作りに努めている。	入口の玄関やリビング内には利用者、職員が共同で作成した季節が感じられる作品を掲示している。個々が望む過ごし方が出来るよう机を配置し、隣の人との会話や洗濯物たたみ、キッチンから調理の気配が感じられる等、家庭的な雰囲気作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様一人ひとりが快適にくつろいで過ごせる居場所、転倒や転落の危険を配慮したレイアウトを用い、安全、安心に移動が出来るような空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力のもと、思い出のある品や使い慣れたもの、思い出にまつわる何かをお聞きした上で施設へ持ち込み、居心地の良い空間が作れるように配慮している。又思い出の品をもとに職員との関りがふえ、会話が弾んでいる。	利用開始前に見学をしてもらい、使い慣れた家具、大切にしている物などの持ち込みが可能である。家族、関係者の協力のもとで思い出のある品が持ち込めるよう配慮している。居室内、廊下には転倒予防に配慮し、手すりの設置や都度本人の状況に合う環境が整えられるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	張り紙などを活用し、視覚的な案内、安全マット、足元センサー、手すり、ポータブルトイレ、歩行器、車椅子など一人ひとりの身体状況に合わせ、適切な見守りと介助をすることで自立支援に繋げている。		

V アウトカム項目(1F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念のサービスを基本とし、理念を目標にケアの実践に努めている。スタッフルームには見える場所に理念を掲示し、より良いケアの実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事については新型コロナウイルス感染症も5類になったことで地域の恒例行事でもあるはね踊りを入居者様と見学したり、又地域内での溝掃除などには職員も積極的に参加させて頂き、地域との交流を図るようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルス感染症が5類となった時点から2か月に一度、町内の副会長、民生委員、地域包括支援センターの方、及び家族を招いて意見交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	問題点、課題点を含めて運営状況の報告を行い、出席者の立場、業務ごとの考え方を踏まえて問題や疑問などを話し合い、「皆で支えあう」施設・地域づくりを目指している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	福山市の生活福祉課、介護保険課、保健所との連携を図り、生活保護受給者を含む入居者様に必要な支援やケアが行えるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者様の意思、自由を尊重したケアを基本とし、声かけ一つで身体拘束となりうる事を念頭に置きながら業務を遂行するように努めている。又定期的に職員自ら身体拘束について勉強し、講師となり再度学ぶ場を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入居者様の自由、尊厳を尊重し、言葉一つ拘束になるということを職員が意識、理解をした上で業務にあたるようにしている。又定期的に虐待をテーマとした施設での勉強会を開催し、日頃の振り返り、再認識できる場を設けている。又研修にも参加させて頂き、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々の利用者に添った対応を進める為に、他の事業所や家族、医療従事者と連携を図り、後見人制度を利用するとともに職員にも説明し、実践を促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	グループホームで生活するうえで必要な書類、条件を説明し、同意を得たうえで、ご家族様の要望や利用者様の不安な点に対して耳を傾け、解決策を提示した上で安心して入居ができるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者やご家族様からの意見は申し送りノートに記入し、全職員が共有したうえで、早急に解決できるように努めている。必要に応じて家族と話を交えお互いにとって良い方向に繋げられるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見に対しては率直に受け入れ、主任、管理者クラスのミーティングで議題としてあげその意見の必要性に対して会議をしたうえで反映できるように取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者（社長、副施設長、管理者）で構成される定例会議を毎月開催し、各事業所の運営に関わる問題を議題とし話し合いを行い、職場の環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加の奨励と共に、勉強会の開催を企画している。個別には管理者・主任が指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部への研修及び施設での勉強会を毎月行い、職員一人ひとりが知識を持った上で業務が行い、サービスの質の向上に力を入れている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人や関係者から情報収集を行い、職員が事前に情報を共有することで入居に備えた準備をしている。又できる限り、入居されるまでに馴染みの関係が気付けるよう配慮している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人に対する要望や施設に対する要望や期待、不安を入居前に事前に聞いたうえで施設、医療機関、家族と連携を図り、全体で入居者様を支えていくという目標を掲げ、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、家族の状況を事前によく理解した上で、入居後の生活について医療機関、家族、施設職員と相談しながら適切なサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が楽しみながら役割や作業（洗濯物を畳む 干す 食器拭き）などに参加して頂けるような声かけを行い、参加された方に対して感謝の気持ちを都度伝え、お互い支えあいながら暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様来訪の際には直接職員が施設内での様子、イベント時の様子などをお伝えし、遠方のご家族様に対しては都度電話で様子を伝えるように努めている。また気軽に来訪して頂けるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人、ご家族から話を聞き、家族、関係者の協力を仰ぎ、馴染みの物、場所、人との関係の維持に努めている。又気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを大切にしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が寄り添い、また程良い距離間を維持しながら入居者同士の程よい関係を保てるように職員は配慮している。またトラブルの際には職員が間に入り、関係が崩れないように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて家族や本人への支援を継続している。施設の特性上、退去後、入院先で亡くなられる場合が多く、最後のお別れまで可能な場合のみさせて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや要望を汲み取り、ご家族様とも相談を交えながら努めている。発語や難聴などの難しい方に対しては言語、非言語を活用しながら本人の気持ちを汲み取れるように対応を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前後に可能な限り、本人、家族、関係者から情報を収集している。本人や家族から思い出話や懐かしい事を伺うことでご本人様のニーズに繋げ、本人の思いに寄り添った支援に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ること、出来ないこと、やりたいこと、やりたくないこと、得意なこと、不得意なこと、好きなこと、嫌いなことを把握した上で表情や体動を観察し、ニーズに応じたケアが出来、想いに寄り添った支援に繋げている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、医療機関の意向を踏まえたうえで作成したサービス計画書をもとに家族、介護職員、看護職員などで検討を重ね、問題の解決を図り、ケアの質の向上に努めている。本人の状態によって計画は随時変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様ごとに個別の介護日誌、健康管理表に細かく記録している。それを踏まえて日々の申し送り、ミーティングなどで検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの「想い」に寄り添った支援が出来るよう柔軟な発想と「心」で対応できるように一人ひとりが意見を持ち寄り日々奮闘している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	以前のように地域のイベントを通じて楽しめる幅広い支援を取り戻していけるように努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族様の希望を把握した上で、適切な医療の提供を受けられるよう、提案、支援している。かかりつけ医や主治医との連携を図ることでご本人、ご家族様の要望に応じ、医療機関の紹介、連携も行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	施設内の看護職員は常に連絡を密とし必要に応じて迅速に医療機関への受診、入院対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に施設側が医療機関とご家族様のパイプ役となり必要に応じて入退院の際には職員が同行し、家族、病院をサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に基本的な方針やリスクを想定した対応などの説明を行い、同意を得た上でサービスの提供開始となる。入居者様の状況変化に応じて都度関係職員の意見を用いながら施設で出来ること、出来ないことを見極め、ご家族、本人様に理解して頂けるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必要な時に直ぐ手に取れるように緊急時のマニュアルを各部署に配布。又上司による緊急時の対応の説明をしている。又年に1～2回の救命訓練やミーティングの中で管理職、看護職の指導の下、実践できるように準備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	福山市の合同防災訓練に参加したり、施設内での訓練には入居者様も参加し実施している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2F ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は「親しみやすい声掛け、態度」と「馴れ馴れしい声かけや態度」の区別を理解し、入居者様の尊厳を大切にしプライバシーに配慮した声かけが出来るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が遠慮や職員に対して気を遣い、自分の思いや希望が言えないことが無いように明るい雰囲気の中で個々のペースに合わせて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりがいろんな思いと自分のペースでゆったりと過ごして頂けるよう、施設職員は創意工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナウィルスの影響で以前までボランティアカットを活用していたが、現在は利用中止をしている。定期的に散髪免許を持った職員がカットを行ったり、髪を染めたりすることで喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好物、嚥下状態に合わせ、普通食、刻み食、ムース食、ペースト食、トロミを用いり、美味しく楽しく食事をして頂いている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	医師、看護師、家族と相談しながら食事 の内容や水分の質、トロミ具合などを検 討し無理なく安全に召し上がって頂ける ように工夫している。食器も色や形、大 きさ、深さによって使い分けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	家族に説明し同意を得た上で歯科医師、 歯科衛生士の指導のもと、一人ひとりの 状態に合わせ、口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	可能な限りトイレで安心、安全に排泄が できるように介助を統一し、トイレで排 泄が出来るようにしている。居室には必 要に応じてポータブルトイレを設置して いる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤に頼りすぎないように医師・看護師 の指示のもと職員で話し合い、運動や食 物繊維、乳製品など便秘に良いと言われ ている食品を取り入れるなどの工夫をし ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入居者様の状態や希望を尊重し、ゆっく りくつろげるように予定を組んでいる。 入浴中の事故やトラブルの予防の対応の 為、入浴時間帯は職員が3人体制を厳守 している。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居者様それぞれに居心地の良 い場所があり、食後は居室やソ ファで過ごされる方も多い。職 員は急変や転倒にすぐ対応でき るように都度巡回を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	病院からの服薬の指示、指示書 は必ず書面で確認している。目 的や方法に応じて看護師、医 師の指示のもと保管場所や取 扱方法を決め、職員同士で共有 し、確認、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	午前、午後の定時のおやつ以外 にも好みの物や嚥下状態の悪い 方でも食べられるようなおやつ を準備している。個別に散歩や 買い物、YouTubeなどを利用し 昔懐かしい映像を見たり楽しん で頂けるように創意工夫してい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	駐車場やベランダでの日向ぼっ こ、近隣への散歩や買い物、外 食、季節に応じて花見、家族と の外出などの頻度は個人差もあ るが、外出の支援は積極的に行 っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	お金に関心のない方、お金のこ とで不安になられる方も居られ るため対応には配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	可能な限り柔軟に対応している。家族関係や関係先の事情も把握した上で混乱、トラブルにならないよう円滑にやり取りが継続できるように努めている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	脱衣場やトイレなどの使用頻度の高い共有空間には介助するうえでプライバシーが確保できるようにカーテンやパーテーションを設置し、プライバシーが守られるように配慮している。又季節ごとに飾りつけを入居者様と一緒にを行い、居心地の良い空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者様一人ひとりが快適にくつろいで過ごせる居場所、転倒や転落の危険を配慮したレイアウトを用い、安全、安心に移動が出来るような空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力のもと、思い出のある品や使い慣れたもの、思い出にまつわる何かをお聞きした上で施設へ持ち込み、居心地の良い空間が作れるように配慮している。又思い出の品をもとに職員との関りがふえ、会話が弾んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	張り紙などを活用し、視覚的な案内、安全マット、足元センサー、手すり、ポータブルトイレ、歩行器、車椅子など一人ひとりの身体状況に合わせ、適切な見守りと介助をすることで自立支援に繋げている。		

V アウトカム項目(2F) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム憩

作成日 令和7年3月1日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	災害時における訓練及び対策に対して地域住民との情報共有、連携が取れていない。	地域住民との交流を増やす。	町内行事や地域のお茶会等に参加し、地域住民との交流を増やす。	5ヶ月
2	35	災害時における訓練及び対策に対して地域住民との情報共有、連携が取れていない。	災害時における協力体制を作る。	地域住民、消防署と災害を想定した訓練を行い災害時に備えていく。	8ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。